

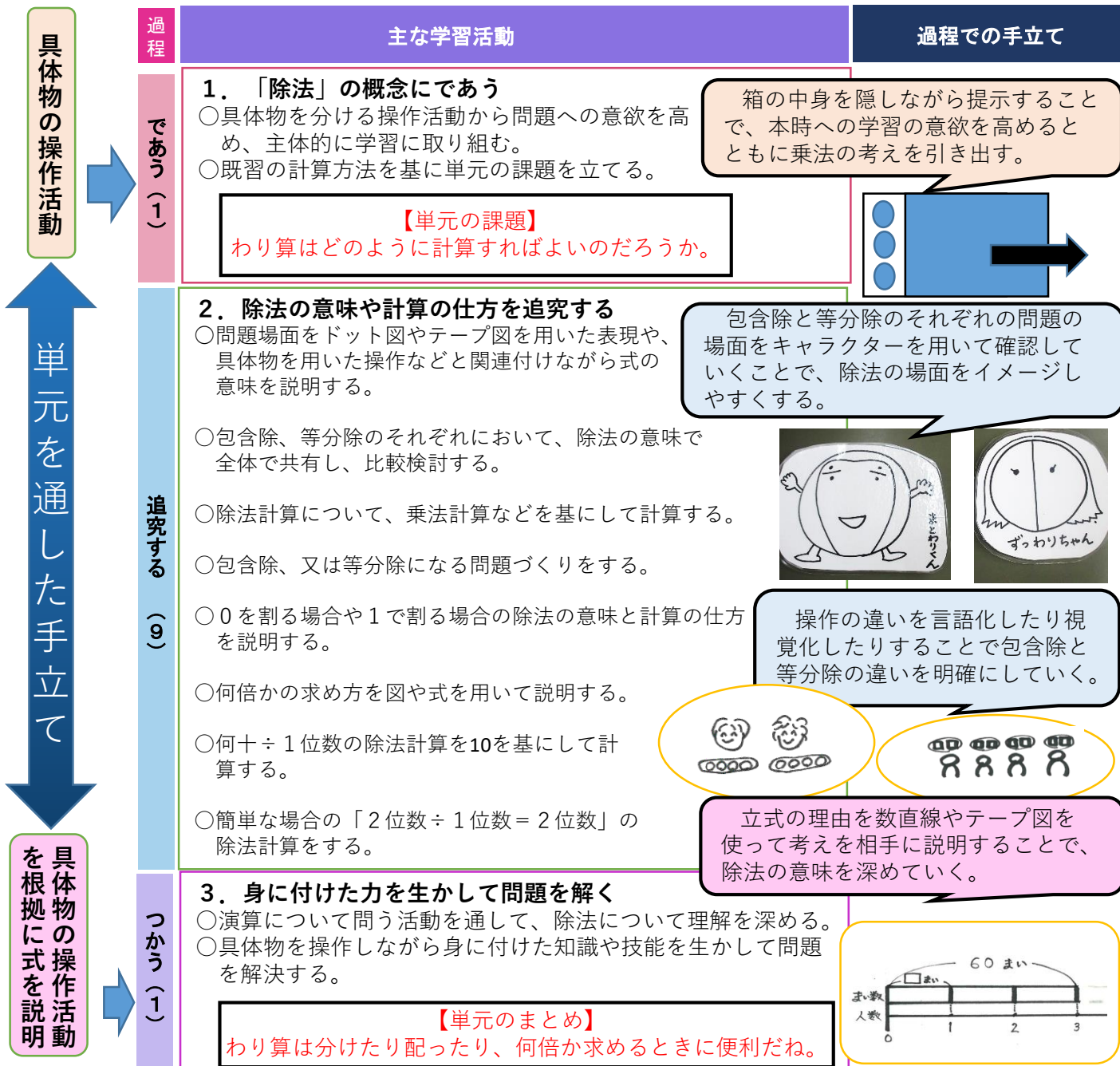
単元名 『わり算』（第3学年） 全11時間計画

単元のねらい

除法の意味や計算の仕方について理解させ、その計算が確実にできるようにするとともに、それらを用いる能力を伸ばす。

## 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫を取り入れた単元構想

であう過程では、具体物を操作したり、それを既習の学習と結び付けたりすることで、主体的に学習に取り組めるようにします。追究する過程では、包含除と等分除のそれぞれの場面における計算、図や操作の違いから割る意味の違いを意識した上で、共通点を見いだしていけるようにします。また、立式の理由を言葉を用いた式や数直線、図を使って児童に繰り返し説明させることで、数学的表現を用いて自分の考えを相手に伝えられるようにします。つかう過程では、除法と乗法、減法のどれかで立式する問題文の中から除法の式を探し出す学習を通して、今までの学びを深めていけるようにします。



指導例：『わり算』（第3学年 第1時）

指導のポイント

1 新たな学習内容に触れ、めあてを立てる。

○問題を把握する。

<問題> (箱の中のクッキーを見えないようにしておく。)  
箱の中に入った12個のクッキーを4人で仲よく分けよう。

S: 縦で3個、半分見えているから、3個かな。6個かな。9個かな。

○めあてを作る。

T: 12個のクッキーを4人でどう分ければよいのかな。

<めあて>12個のクッキーを4人で仲よく分けるにはどのような分け方があるのだろうか。

新たな学習内容に出会わせる

- 箱の中身を隠しながら提示することで、学習課題への興味をもたせ、本時の学習への意欲を高める。
- 乗法の式や分割の考えがでたら、ふたを開け、数を確認する。

2 関連する知識・技能や経験を基に解決する。

○解決の見通しをもつ。

S: 仲よく分けるためには、同じ数ずつでないといけないよ。

S: 線を引いて3個ずつのかたまりにして分ければよいんじゃないの。

S: 4人の児童に1個ずつ配っていけばよいよ。

T: どのような分け方だったか、言葉、式、おはじきで表せるかな。

<<児童の主な考え方>>

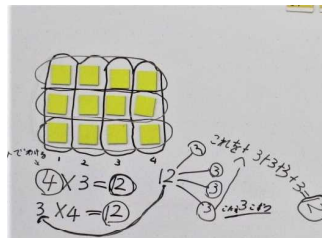
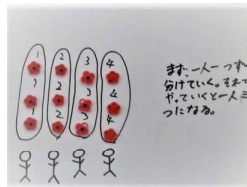
◇子供の絵をかいて配っていく考え方

S: 4人の子供に一つずつ配ると一人分が分かるね。

S: 3個ずつのかたまりに分ければ一人分が分かるね。

◇式を使った考え方

- ・たし算  $3 + 3 + 3 + 3 = 12$
- ・ひき算  $12 - 3 - 3 - 3 - 3 = 0$
- ・かけ算  $4 \times 3 = 12$   
 $3 \times 4 = 12$



解決の見通しを十分にもたせる

- 12個のおはじきを操作する活動を基に包含除や等分除などの児童の考えを引き出す。

本単元のポイントとなる考えを確認させる。

- 問題の場面を式に表したり、読み取ったりすることで、具体的な数量関係を捉え、包含除や等分除の考えを捉えさせていく。

3 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。

S: 3個ずつ分けると同じ味になるね。

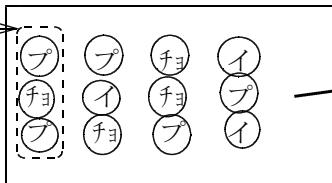
S: 味が違うなら、違う味で分けないと仲よくならないね。

S: 違う味になるように配って分ければよいね。

$4 \times 3 = 12$

(4個入り × 3種類 = 1箱)

S: わり算はかけ算にもなるのだね。



(**プ**・・・プレーン味)

(**チョコ**・・・チョコ味)

(**イチゴ**・・・イチゴ味)

新しい学習内容の必要性を感じる工夫

- クッキーの味が3種類で違った時、「12個のクッキーを4人で仲よく分ける」という視点から児童たちに分け方がどう変わるかを考えさせ、等分除の考えを意識させる。

4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。

S: 12個のクッキーを4人で同じ数ずつ分けるとき、一人分は3個になるのだね。

T: 今までの学習のどこがわり算につながってきましたか。

S: わり算はかけ算の考え方とつながっているね。

<単元の課題>

わり算はどのような場面に用いられているのだろう。

単元の課題を見いださせる

- 日常生活の場面から除法を活用して問題を主体的に解決できることのよさやもっと知りたいことや考えてみたいことを話し合う。

指導例：『わり算』（第3学年 第9時）

指導のポイント

1 学習を把握し、めあてを設定する。

○問題を把握する。

<問題>

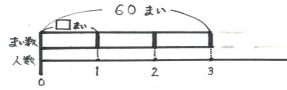
60枚の折り紙を3人で同じ数ずつ分けます。一人分は何枚になるでしょうか。

○問題場面や式を確認する。

S：同じ数ずつ分けるからわり算だね。

S：テープ図に表すとこうなるね。

S：式は、 $60 \div 3$ です。



○本時の学習と既習の学習との違いを確認する。

T： $60 \div 3$ の式は、今までと（ $6 \div 3$ ）と何が違いますか。

S： $6 \div 3$ は3の段の九九を使えばよかった。

<めあて> $60 \div 3$ のようなわり算の計算の仕方を考えよう。

○解決の見通しをもつ。

T：どのように考えたらよいでしょうか。

S：今までと同じように1枚ずつ配ればできそうだね。

S：3の段の九九を3ずつ足していけばできそうだよ。

T：いろいろありそうだけど、簡単にできる方法はないかな？

めあてを児童のものにするために問いを表出させる

○前時までの学習を振り返り、除法は乗法を基にしていたことを想起させてから、本時の問題の追究につなげる。また、教師と児童のやりとりから生じた児童の問いを本時のめあてにする。

追究の見通しを十分にもたせる

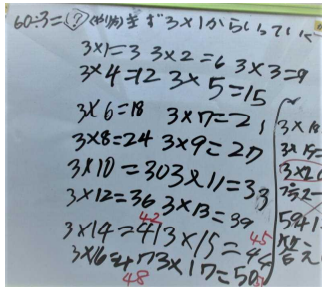
○今までの学習と似ているところや、解決のために使えるような既習事項を活用することを通して、全ての児童が解決方法や結果の見通しをもてるようにする。

2 めあてを追究する。

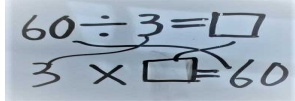
○問題場면을図や式に表したり、実際に操作しながら問題を追究する。

<<児童の主な考え方>>

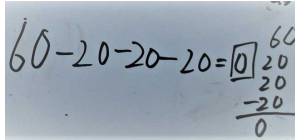
◇3の段を使った考え



◇乗法を使った考え



◇減法を使った考え



解決方法や考えの根拠を説明させる

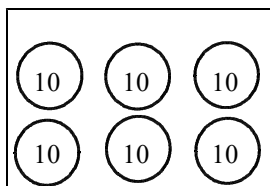
○自分の考えと友達の考えの類似点や相違点を視点として、ペアの相手に図や式などの根拠を示しながら説明する。

○考えを深める。

T：どのようにすれば $60 \div 3$ は計算できますか。

S：一人に10枚ずつ配れば、

$6 \div 3$ と同じに計算できるね。



学びの自覚をさせるために適用問題で振り返らせる

○ $60 \div 3$ の場合、児童が60を「10が6個」と捉え、その「6個」の束で割ると答えは「10が2個」というように単位の考えに基づいて考えさせる。

○10枚ずつ束になっている実物を基に考えを説明する活動を取り入れる。

3 学習をまとめる。

<まとめ> 10のまとまりで考えると、今までと同じ様に九九を使って求めることができる。

4 学習を振り返り、適用問題に取り組む。

<適用問題>

$800 \div 4$ が200になることを「100」のカードを基に説明しよう。

S：100を基にすれば、 $800 \div 4$ もできそうだね。

指導例：『わり算』（第3学年 第11時）

指導のポイント

1 学習を把握し、めあてを設定する。

○単元でどのような学習をしてきたのかを確認する。

○問題を把握する。

<問題>

答えを求める式が  $8 \div 2$  になる式はどれですか。

ア：8人の子供にあめを2こずつ分けます。あめは何こいりますか。

イ：色紙が8まいあります。一人に2まいずつ配ると、何人に分けられますか。

ウ：8cmのえんぴつは、2cmの消しゴムの何倍ですか。

エ：8このチョコレートを二人で分けます。一人分は何こになりますか。

○問題場面や式を確認する。

S：それぞれの問題場面が式や図に表せそうだね。

○本時の学習と既習の学習との違いを確認する。

S：「分ける」というキーワードがあればいつでもわり算になるのかな。

○既習事項を基に、めあてをつくる。

<めあて>文章題の式がわり算になるのはどのような場合なのだろうか。

○解決の見通しをもつ。

T：どのように考えたらよいでしょうか。

S：図や式で考えたり、おはじきを使えばよいと思います。

T：答えはどれだと思えますか。

S：どれも  $8 \div 2$  になりそうだね。

2 めあてを追究する。

○個別に追究し、考えを全体で共有する。

<児童の主な考え方>

◇イの求め方は、何人に分けられるか求める「かたまりくん方式」



◇エの求め方は、一人分を求める「ずつわりちゃん方式」



○考えを深める。

S：「幾つ分」「一つ分」を求める時はどちらもわり算だね。

S：何倍か求める時もわり算だね。

S：アは「全部の数」を求めているからかけ算だね。

3 学習をまとめる。

<まとめ>

・「わける」「くばる」というキーワードがあってもわり算ではないときがある。

・わり算とかけ算はよく似ているので、何を求めればよいのか考えることが大切だ。

4 学習を振り替える。

○問題解決の際に使った考え方をまとめ、思考の過程を整理する。

<単元全体の振り返り>

・わり算とは、分けたり配ったり、何倍か求めるときに使われており、便利だということが分かった。

・余りが出る場合はどうなるか知りたい。

単元で学んだことを活用できる問題を設定する

○前時までの学習を振り返り、除法には包含除や等分除、何倍か求める場合があったことなど既習事項を想起させてから、本時の問題を追究する。

具体物を操作することで解決への見通しをもたせる

○問題場面を想定した具体物を操作できるコーナーを用意することで、児童が操作しながら実感を伴い理解できるようにする。

解決方法や考え方を説明し合わせる

○児童が「追究する」過程で習得してきた知識と技能を活用するために個別に追究する時間を多く取る。

本単元のポイントとなる考えを確認させる

○除法には「幾つ分」を求める包含除や「一つ分」を求める等分除、何倍か求める場合があることを意識させ、根拠を明確にして説明させる。

日常生活で除法を活用すると能率的に解決できることを実感させる

○余りの処理などの児童の疑問を生かし、次の「余りのあるわり算」の単元へつなげていく。

# 算数科学習指導案

令和元年6月 第3学年 指導者 森下 由佳

## I 単元名 「わり算」

## II 学習指導要領上の位置付け

第3学年 A数と計算 A(4) 除法

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。

(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

(エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。

(オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

## III 目 標

除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。


ア、イは、「II 学習指導要領上の位置付け」に同じ

ウ 包含除や等分除など、整数の除法の意味を理解し、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

## IV 指導計画 ※別紙参照

**V 本時の展開 (1/11 であう)**

- 1 ねらい 12を四つに分ける活動を通して、除法と乗法や減法との学習と関連付けて除法を考え、単元の課題を見いだすことができるようにする。
- 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p><b>1 新たな学習内容に触れ、めあてを立てる。(10分)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;問題&gt;箱に入ったクッキーを4人で仲よく分けよう。</p> </div> <p>○箱の中身を隠しながら提示することで、本時の学習への意欲を高める。                  ○縦で3個見えているから、3の段の九九の数になりそうだという見通しをもたせる。                  ○乗数の式や分割の見方を取り上げた後、数を確認する。</p> <p>(問い) 一つずつ分ける以外に何かあるのかな。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>&lt;めあて&gt; 12個のクッキーを4人にどう分けるか考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">○ ○ ○</div>  </div> </div>			
<p><b>2 既習の知識・技能や経験を基に解決する。(20分)</b></p> <p>○12個のおはじきを操作する活動を基に「線を引いて、かたまりで分ける」「4人の子どもを絵にかいて、1個ずつ配る」という考えを引き出すために具体物を操作しながら、ペアで説明し合わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;問題&gt;どのような分け方だったか、言葉、式、おはじきで表せるかな。</p> </div> <p>○包含除や等分除になるように子供たちからの言葉で区別を付けられるように、全体発表の際には友達の考えと自分の考えの類似点や相違点がないか気を付けて聞くようにさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>12を四つに分ける活動を通して、除法と乗法や減法の学習と関連付けて除法を考えている。                  &lt;ワークシート・発言(1)&gt;</p> </div>			
<p><b>3 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。(10分)</b></p> <p>○クッキーの味が3種類で違ったとき、分け方がどう変わったか考え、話し合う。                  ( <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ア</span> )…プレーン味 ( <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">チョコ</span> )…チョコ味 ( <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">イチゴ</span> )…イチゴ味</p> <p>○「味が違うなら、違う味で分けたい」という子供の考えを取り上げ、<math>4 \times 3 = 12</math> (4個入り <math>\times</math> 3種類 = 1箱) になることを確認する。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>○「味が違うなら、違う味で分けたい」という子供の考えを取り上げ、<math>4 \times 3 = 12</math> (4個入り <math>\times</math> 3種類 = 1箱) になることを確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ア</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ア</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">チョコ</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">イチゴ</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">チョコ</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">イチゴ</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ア</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ア</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">チョコ</div> <div style="margin: 2px; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">イチゴ</div> </div> </div>			
<p><b>4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。(5分)</b></p> <p>○除法の式表現を知り、見方・考え方を振り返る。                  12個のクッキーを4人で同じ数ずつ分けるとき、一人分は3個になる。<math>12 \div 4 = 3</math></p> <p>☆わり算はかけ算の考えとつながっているね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;単元の課題&gt; わり算はどのように計算してけばよいのだろう。</p> </div>			

## V 本時の展開 (9/11 追究する)

- ねらい  $60 \div 3$  のような、何十  $\div$  1 位数 = 2 位数の除法の計算の仕方を10を基にして考えることを通して、何十  $\div$  1 位数の計算ができるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<b>1 学習を把握し、めあてを設立する。(5分)</b> ○前時までの学習を振り返り、除法は乗法を基にしていたことを想起させてから、本時の問題に触れていく。			
<問題> 60枚の折り紙を3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何枚になるでしょうか。			
(問い) 3の段の九九よりも大きいね。どのようにすれば求められるのかな。			
<めあて> $60 \div 3$ のようなわり算の計算の仕方を考えよう。			
<b>2 めあてを追究する。(30分)</b> (1) 個別に追求し、考えを全体で共有する。 ○「3の段の九九に3ずつ足していけばできそうだな」や「ひき算やたし算でもできないか」「かけ算はどうか」などの考えを引き出すために既習事項が書いてあるホワイトボードを提示することで想起させる。 ○自分の考えと友達の考えに類似点や相違点があるかを視点として、ペアの相手に根拠を示しながら説明する活動を取り入れる。			
-----			
(2) 考えを深める。 ○「一人に10枚ずつ分ける」という考えから、10枚ずつ束になっている紙を操作する活動を基にその根拠まで説明させる。 ○ $60 \div 3$ でも $6 \div 3$ の考えを使えば簡単に答えが出せることを共有させる。			
<b>3 学習をまとめる。(5分)</b> ○10のまとまりで考えると、乗法九九一回適用で計算できることに気付かせるために、ペアで $60 \div 3$ が20になることを説明し合う活動をさせる。			
<まとめ> 60を10が6個と見て考えれば $60 \div 3$ もできる。			
<b>4 学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。(5分)</b> (練習問題) $90 \div 3$ $60 \div 2$ $50 \div 5$ $40 \div 2$ (適用問題) $80 \div 4$ が20になることを⑩のカードを基に説明しよう。 ○上記の計算に取り組むことを通して、10のまとまりでも考えられることを確認する。			
-----			
(何十) $\div$ (1 位数) の除法の計算ができる。 <ノート (3)>			
☆100のまとまりで考えれば、 $600 \div 3$ もできそうだね。			

## V 本時の展開 (11/11 つかう)

- 1 ねらい 演算決定を問う活動を通して、除法についての理解を深められるようにする。
- 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<b>1 学習を把握し、めあてを設定する。(5分)</b>			
○ 既習の問題を掲示し、「幾つ分」を求める「包含除」や「一つ分」を求める「等分除」の問題にチャレンジしてきたことを確認する。			
○ 「分ける」というキーワードがあれば、どの問題文もわり算になるのか問う。			
<p>&lt;問題&gt; 答えを求める式が <math>8 \div 2</math> になるのはどれですか。</p> <p>ア 8人の子供にあめを2個ずつ分けます。あめは、何個ありますか。 <math>2 \times 8</math></p> <p>① 色紙が8枚あります。一人に2枚ずつ分けると、何人に分けられますか。 <math>8 \div 2</math></p> <p>ウ クッキーが8個あります。2個食べると、残りは何個ですか。 <math>8 - 2</math></p> <p>② 8個のチョコレートを2人で分けます。一人分は何個になりますか。 <math>8 \div 2</math></p>			
(問い) どれが $8 \div 2$ になるのかな。			
<めあて> 文章題からわり算を見付けて、説明しよう！			
<b>2 めあてを追究する。(30分)</b>			
(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。			
○ 「分ける」というキーワードのないウはわり算ではないことを確認しておく。			
○ 個別でア～エの中から $8 \div 2$ になる問題を見付けて、絵や図、おはじきを使って、根拠を明確にする。			
○ グループになり、その根拠を説明してから、全体で確認する。			
(2) 考えを深める。			
○ ①は、わり算のどの方式になるか、具体物を操作しながら確認する。(包含除)			
○ ②は、わり算のどの方式になるか、具体物を操作しながら確認する。(等分除)			
○ アは、わり算ではなく、かけ算であることも具体物や言葉を基にその根拠を説明し、全体で共有していく。			
包含除や等分除など、整数の除法の意味を話したり、説明したりしている。 <発言・ワークシート (4)>			
<b>3 学習をまとめる。(5分)</b>			
<まとめ> ・「分ける」というキーワードがあってもわり算ではない場合もある。 ・わり算とかけ算はよく似ている。			
☆わり算はいろいろな問題があるけど、図やおはじきを使えば説明できるね。			
<b>4 学習を振り返る。(5分)</b>			
<単元全体の振り返り> わり算とは、分けたり配ったりするときに便利だということが分かった。			



指導計画 算数科 第3学年 単元名「わり算」(全12時間計画)

<p>目標</p>	<p>除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア (知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。</li> <li>・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</li> <li>・ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。</li> <li>・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。</li> <li>・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。</li> </ul> <p>イ (思考力、判断力、表現力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</li> <li>・ 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。</li> </ul> <p>ウ (学びに向かう力、人間性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に生かそうとしている。</li> </ul>		
<p>評価規準</p>	<p>(1) 除法の意味や計算の仕方を、乗法や除法と関連付けて考えようとしている。</p> <p>(2) 除法の意味や計算の仕方を既習の計算を基に具体物や図などを用いて考えている。</p> <p>(3) 除法と商がともに1位数である除法計算が確実にできる。また、簡単な場合の2位数÷1位数=2位数の除法計算ができる。</p> <p>(4) ・ 包含除や等分除など、整数の除法の意味や、除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 何倍かを求めるのに除法を用いることを理解している。</p>		
<p>過程</p>	<p>時間</p> <p style="text-align: center;">○ねらい めあて</p>	<p>☆振り返り (意識)</p>	<p>◇評価項目 〈方法 (観点)〉</p>
<p>であう</p>	<p>1</p> <p>○12を四つに分ける活動を通して、除法と乗法や減法との学習と関連付けて除法を考え、単元の課題を見いだすことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>12個のクッキーを4人でどう分けるか考えよう。</p> </div>	<p>☆12個を四つに分ける方法はたくさんあるね。 ☆分けるには、引き算を使えばいいけど、答えが0になってしまうね。 ☆わり算は、同じ数ずつ分けたりすることなのだね。</p>	<p>◇等分除の場面について、具体物の操作などから捉えようとしている。 〈ノート・発言 (1)〉</p>
<p>追究する</p>	<p>1</p> <p>○12個のクッキーを4個ずつ分ける仕方を考えることを通して、除法の意味 (包含除) を説明できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>12÷4の答えの求め方を考えよう。</p> </div> <p>1</p> <p>○24個のビー玉を1人に6個ずつに分ける場面で、包含除の場合の九九を用いた答えの求め方を考えることを通して、計算で求めることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>24÷6を計算で求めるにはどうしたらよいだらう。</p> </div> <p>1</p> <p>○12個のクッキーを4人で同じ数ずつ分ける仕方を考えることを通して、除法の意味 (等分除) を説明できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1人分は何個になるかを、おはじきを使って説明しよう。</p> </div> <p>1</p> <p>○24個のいちごを6人で同じ数ずつ配る場面で、等分除の場合の答えの求め方を説明できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>24÷6を計算で求めるにはどうしたらよいかかな？</p> </div> <p>1</p> <p>○8÷2になるの式になる問題を作ることを通して、包含除と等分除の場合の式、答えの求め方を比較し、同じ除法として理解できるようにする。</p>	<p>☆12個のおはじきを4個ずつ袋に入れたときは、引き算を使えばよいね。 ☆九九を使えば求められそうだね。</p> <p>☆計算でも求めるには、一人分の数を□にして計算すれば求められるね。 ☆6の段の九九を使えば求められそうだね。</p> <p>☆4人に順番に配っていくと同じ数ずつ分けられるね。</p> <p>☆幾つに分けられるかを求めるときも、わり算を使う。 ☆24÷6の答えは、6のだんの九九でも見付けられたよね。 ☆□のあるかけ算と同じだね。</p> <p>☆「幾つ分」を求める場合も「一つ分」を求める場合もどちらもわり算だね。</p>	<p>◇包含除の場面の分け方を、具体物を基に説明することができる。 〈発言・観察 (2)〉</p> <p>◇除法 (包含除) の意味や計算することができる。 〈ノート・発言 (3)〉</p> <p>◇等分除の場面の分け方を、具体物を基に説明することができる。 〈発言・観察 (2)〉</p> <p>◇除法計算について、乗法計算などを基にして説明することができる。 〈発言・観察 (2)〉</p> <p>◇包含除と等分除が除法としてまとめられることを発言したり記述したりしている。</p>

	<p>8 ÷ 2 の式になる問題をつくって、答えを求めよう。</p>		<ノート・発言 (4)>
1	<p>○20 ÷ 4 の式になる問題を作り、包含除と等分除を表す図を比較し、答えの求め方を図を用いて説明できるようにする。</p> <p>20cmのリボンがあります。20 ÷ 4 の式になる問題をつくり、答えの求め方を図を使って説明しよう。</p>	☆同じ式でも問題文によって答えが変わるね。	◇包含除と等分除の答えの求め方を図や式などを用いて説明している。 <発言・観察 (2)>
1	<p>○6個、3個、0個のドーナツをそれぞれ3人で分けたときの数を求めることを通して、被除数が0や、商が1になる除法の意味を理解できるようにする。</p> <p>箱の中のドーナツを3人で同じ数ずつ分けま す。一人分は何個になるでしょうか。</p>	☆割られる数が0や1でもわり算で求められるね。	◇0を割る場合や1で割る場合の除法の意味と計算の仕方を発言したり記述したりしている。 <ノート・発言 (3)>
1	<p>○18cmが6cmの何倍かを求めることを通して何倍かを求めるのに除法を用いることを理解できるようにする。</p> <p>鉛筆の長さは18cmです。消しゴムの長さは6cmです。鉛筆の長さは、消しゴムの何倍でしょうか。</p>	☆何倍って求めるときは、かけ算だと思っていたけど、わり算で求めるときもあるね。	◇何倍かを求める仕方を、図や式を用いて発言したり記述したりしている。 <発言・観察 (4)>
1	<p>○60 ÷ 3 のような、何十 ÷ 1 位数 = 2 位数の除法の計算の仕方10を基にして考えることを通して、何十 ÷ 1 位数の計算ができるようにする。</p> <p>60 ÷ 3 のようなわり算の計算の仕方を考えよう。</p>	☆60を10が6個とみて考えれば60 ÷ 3 もできるね。	◇何十 ÷ 1 位数の除法の計算ができる。 <ノート (3)>
1	<p>○69 ÷ 3 のような、2 位数 ÷ 1 位数 = 2 位数の除法計算の仕方を位ごとに分けて考え、計算できる。</p> <p>69枚の折り紙を3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何枚になるでしょうか。</p>	☆69を60と9に分けてから計算すれば69 ÷ 3 もできるね。	◇簡単な場合の2位数 ÷ 1 位数 = 2 位数の除法の計算ができる。 <ノート (3)>
つかう	<p>○演算決定を問う活動を通して、除法についての理解を深められるようにする。</p> <p>文章題からわり算を見つけて、説明しよう。</p>	<p>☆「分ける」というキーワードを基にわり算を見付けよう。</p> <p>☆「一つ分」や「幾つ分」を求める問題はどのように説明すればよいのかな。</p>	◇包含除や等分除など、整数の除法の意味を理解している。 <ノート・発言 (4)>